

【開催報告】

「神奈川県市区町村社会福祉協議会と災害ボランティアによる災害図上訓練 2016」

第1回：県央地区

12月7日（水）午後、アミューあつぎ（地域交流プラザ内会議室）にて、県央地区9市町村の社会福祉協議会職員と災害ボランティアネットワークのメンバーを中心に約50名が参加しました。

本訓練は、神奈川災害ボランティアネットワーク主催、県央都市社会福祉協議会連絡協議会（幹事社協：厚木市社会福祉協議会）の共催、神奈川県社会福祉協議会の協力によって、プログラム構成企画と準備、当日の運営を共同で行いました。

プログラム前半は、講義形式で「厚木直下地震の可能性とボランティアセンター（VC）が機能するための要件」と題し、神奈川県地震被害想定調査委員会の委員長を務めた吉井博明氏（東京経済大学名誉教授）による資料をもとに、厚木直下地震および首都圏・神奈川県の被害想定と災害ボランティアセンターの意義や機能等について過去の災害経験から学ぶとともに、図上訓練の手法や状況設定によるイメージトレーニングを行いました（吉井先生は急遽欠席につき、森理事が代行）。続いて、事前課題として各市町村毎にVC設置要件・資機材・スタッフ等の現状を整理した資料一覧を参照しながら、それぞれの準備状況を全体で情報共有し、状況把握に役立てました。

プログラム後半は、各市町村のグループワーク形式で図上訓練を実施。地図を囲みながら、災害VC開設と、厚木市に甚大な被害が出た場合を想定した救援ルートおよび方法、厚木市災害VC運営支援に向けた内容とスタッフ派遣の検討、さらに県支援センターを経由した応援体制を題材に取り組みました。最後に全体ワークとして、議論した内容の発表と講評を通して、災害時に課題になること・近隣地域で連携できること等を共有し、平常時からBCP（事業継続計画）を考えた具体的な取り組みに今後つなげていくことを目指しました。

◆本訓練の第2回は、来年1月に湘南地区で開催予定です。



河西理事長による挨拶



図上訓練の様子①



図上訓練の様子②



全体発表

☆本訓練は、神奈川県社会福祉協議会の地域福祉活動支援事業助成によって実施しています。